

## 質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大 学 等 名	東京女子医科大学		
取 組 名 称	女性医療リーダー育成をめざす全学横断教育		
申 請 区 分	教育方法の工夫と改善を主とする取組		
取 組 期 間	平成20年度～平成22年度（3年間）		
取 組 学 部 等	全学	取 組 担 当 者	大澤真木子
W e b サ イ ト	<a href="http://www.twmu.ac.jp/gp/zengaku/">http://www.twmu.ac.jp/gp/zengaku/</a>		
取組の概要	医療実践で組織・社会を主導できる女性医療人意識を育成するために、医学部・看護学部が共同して学部横断教育を開発した。取組では学生が医療人としてのキャリアおよび女性のライフサイクル・キャリアを考える教育を学部に取り入れ、さらに医療チームの協働のなかでリーダーシップを執る力を育成する横断教育を行った。医療チームの中で判断・問題解決を行える実践力を教育アウトカムとして目指した。		

### 1. 取組の実施状況等

#### ①取組の実施状況 【1ページ以内】

取組は、医学部・看護学部それぞれのキャリア教育、学部横断の協働の精神を養う教育、リーダーシップ教育の3つの枠組みを構築して実施された。初年度は新たな教育を創造するための開発、準備、パイロット授業が行われた。学部横断教育のために横断教育委員会を設置した。2年目には看護学部はキャリア教育を取り入れた新カリキュラムを導入し、医学部は授業の中にキャリア教育を導入し、さらに両学部合同の協働教育が開始された。最終年度は、両学部の教育の充実と共に、協働教育が全学生（学年全体）で実施され正課のなかに組み込まれた。

##### （1）取組の実施体制

学部毎の取組は、医学部・看護学部教務委員会が担当した。医学部では教務委員会の基にある人間関係教育委員会が主として教育実践を担当し、看護学部では初年度は教務委員会の中で教育GP委員会が設けられ、各領域で行われるキャリア教育を統括した。学部教務委員長は学部教育全体の中での統括を行い、学部長を通して多くの両学部教員に取組について理解と協力を得た。横断教育は、初年度は両学部合同教務委員会が担当し、その後大学規程にある大学協議会で綿密な連携を行った。取組に合わせて学務（教務）事務も改編され、両学部学務課を学務部長が統括することで学部間教員・職員の協働教育体制を整えた。

##### （2）取組の実施計画に掲げた内容

女性のライフサイクルを知り、医療専門職としてのキャリア展望を持ち、そのなかで女性医療者としての専門職意識を醸成する教育が既存の授業の中にも取り込まれた。医学部では人間関係教育（医師としての態度・マナー・倫理・コミュニケーション・専門職意識教育カリキュラム）およびテュートリアル教育、看護学部では講義・演習科目、看護学実習の中で教育開発と導入が行われた。協働の中でのリーダーシップ教育は、従来1年生のみで行われていた両学部合同授業が、講義、ワークショップ、臨床実習における合同カンファレンスなどの様々な機会に行われ、チーム医療での協働を学び、そのなかでリーダーシップを執るための教育が行われた。リーダーシップとして「その人物の日常的行動・姿勢が周りに感銘を与え、納得させながら周囲の医療人を動かしていける」を目指した。これらの教育は正課に取り入れられ、医学部・看護学部全学生（年間約900名）が取組に基づく教育を受けた。

##### （3）社会への情報提供活動

取組は日本医学教育学会大会、岐阜大学医学教育開発研究センター医学教育セミナーとワークショップ、第5回日本医師会男女共同参画フォーラム、第47回日本肝臓学会（特別企画「医療界における男女共同の理念と実践と実益」）、日本看護教育学会などで発表あるいは紹介され、社会に公開された。また平成21年に医学部テュートリアル委員会が編纂した「新版テュートリアル教育」（篠原出版新社）にも本取組の成果が含まれている。大学ホームページにも公開された。

## ②. 取組の成果 【1ページ以内】

初年度（平成20年）は、新たな教育を創造するための準備とパイロット授業が行われ、2年度からは看護学部はキャリア教育を取り入れた新カリキュラムを導入し、医学部は授業の中にキャリア教育を導入し、さらに両学部合同の協働教育が開始された。最終年度は、両学部の教育の充実と共に、協働教育が計画された全学生（学年全体）で実施されるように発展した。これらの新たな教育は、カリキュラムの正課のなかに組み込まれ、それぞれの教育を改良・継続するための教育組織が構築され、取組が両学部教育の新たな発展につながった。医学部は平成23年度新入生から、看護学部は平成21年度新入生から、新カリキュラムによる教育となり、両学部の新カリキュラムに本取組が定着したことが成果である。

医学部で本取組と直接関連し、事業終了後も継続する実習・授業の時間数は50時間を超える。看護学部では4個の関連科目が設定され100時間を超えている。学部横断教育は約20時間が導入された。授業評価では概ね学生が興味を持ち、積極的に参加した結果を得ている。医学部では結婚出産する学生が毎年2-4名いる。他の医科大学では特殊な事情として、出産すると留年することが多い。本取組はライフサイクルとキャリアを考えられることが目標の一つであるが、本学で出産した学生は早期に学業に復帰し、自ら休学中の学習を履修し、留年することなく医師となっている。出産した学生がライフサイクルとキャリアを考える機会となるだけでなく、クラス全員がその学生および学内で働く同様な経験を経て医療を行っている先輩医師をロールモデルにすることができる。本取組によりそのような風土を可視化し、教育に取り入れ学生が省察する機会が設けられた。卒前教育のなかで女性医療専門職としてのライフサイクル・キャリアを認識し計画を持つことは、講義で修得出来るものではなく、110余年にわたり女子医療者教育を行ってきた本学の風土に根ざした様々な教育の導入により達成された。建学理念に基づく本取組は事業終了後も継続発展しているが、将来的に離職率、専門資格取得などが本取組の成果として現れることが期待される。

本取組を通じて、医師・看護師を専門職としての意識を持つだけでなく、女性の職業としての特性を認識し、自分の特性を活かした専門職を持つことを意識する教育が達成された。近年医師不足の原因の一つとして女性医師の増加があげられ、男性と異なるライフサイクルの女性医療者のキャリアを支援する制度の充実が推進されている。東京女子医科大学は、女性医療者支援の重要性を早くから認識し、女性研究者のキャリア継続支援、離職女性医師の復帰支援などの事業をいち早く立ち上げ、平成22年度には看護師を含む女性専門職のキャリア継続、キャリアアップを目的とした男女共同参画局を設立した。女性の働く環境の整備・支援は女性医療者の教育機関として重要であるが、他の医療機関でも行われている。本取組の意義は支援を充実させるのではなく、女性医療者自身の意識を高める教育を達成したことである。世界的にも19世紀に始まったいわゆる近代医学教育は男子教育のなかで発展してきた。20世紀に入り、初め少数の、第二次世界大戦以降は多数の女性が医科大学に入学するようになったが、そのことを教育に反映させたわけではなく、男子教育として行われていることをそのまま共学教育に用いているだけである。東京女子医科大学は、ライフサイクルとキャリアが男女で異なる事から、女性が自立と自律でキャリアを継続する教育を開学以来実践してきた。取組を通じて教職員が、共学が増えた近年の医学教育においても、本学の建学理念は現代でも従来にも増して生かされなければならないことを意識する機会となり、教育風土と教育内容の充実を通じて学生教育の向上が果たされた。

### ③. 評価及び改善・充実への取組 【1ページ以内】

本取組は医学部・看護学部正課のなかに、女性のライフサイクル・キャリア・チーム医療・リーダーシップなどの視点を持つ教育を適切な教育方法・計画に基づき挿入する取組であった。教育開発はそれぞれの教育を行う教員組織、教育評価は学部教育を統括する両学部教務委員会、横断教育については合同教務委員会・大学協議会で行われた。

教育開発・改善はそれぞれの教育に適切な教員を学内から集めた教育組織を作ることによって効果を上げた。本取組では医学部・看護学部教員が協働して新たな教育を導入・改善を行った。例えば両学部協働教育で行った生命倫理教育では、当初シンポジウム形式（各学生が考えた後、代表が教室の前で討論する）で行ったが、その後医学部第5学年、看護学部第4学年および早稲田大学健康福祉科学科学生が加わり、従前の2倍の人数で教育を行うことになり、ワークショップ（小グループで全員が参加して討論）+レスポンスアナライザー（グループの回答を電子的に回収し公開するシステム）を用いて考えを共有する教育改善を行い、人数が増えたにもかかわらず全員参加型の教育を達成し、毎年9割以上の学生が積極的に参加でき自分にとって重要な学習機会であったと評価している。また日本では一般化していないチームベーストレーニングを開発導入し、学生の能動的学習を通じた自己開発の新たな医学教育の改善を行った。このように新たな教育法が開発され定着したのも本取組の成果である。

本取組の一部は教育評価であり、最終的到達目標に基づく評価と教育法の確立にあった。医学部・看護学部ではそれぞれ平成23年度、21年度に新カリキュラムが導入され、そのカリキュラム構築が本事業として行われた。医学教育カリキュラムは国際的教育水準を超えるものとして企画され、最終目標を学生の臨床的実践力（コンピテンシー）として表したアウトカムを設定・評価し、学生と教育プログラムをアウトカムによって評価するカリキュラムが構築された。取組の目指すキャリア・リーダーシップ・教育アウトカムなどは教育期間終了時あるいは卒後に最終目標像を置いているため取組終了時点ではなく、新しい教育を受けた卒業生が社会でどのように医療活動を行っているかを評価することが必要である。

#### ④. 財政支援期間終了後の取組 【1ページ以内】

本取組はキャリア・ライフサイクル・女性医療者・リーダーシップなどを教育内容として、チームベーストレーニング、双方向性講義などの教育法、そしてアウトカム評価のためのデータベース作成は財政支援期間終了後も継続する。取組のなかで様々なFDが行われ、それぞれの教育の中核となる教員が育成されたことが本取組の支援終了後の継続を可能にしている。本取組で開発・改良された教育（チームベーストレーニング、ワークショップ型合同教育、臨床カンファレンス等）は教育のための学部横断的教員組織が構築され、教育開発とともに教育組織そのものがFDとなっている。

本事業のなかで構築された新カリキュラムは、世界標準を満たすカリキュラムとして策定された。現在教育の質保証が重要な国際的課題となる。患者および医療者が国を超えて移動し医療が行われる時代となり、医師・看護師教育の国家間格差あるいは教育機関間格差が問題となっている。このため教育の国際基準（グローバルスタンダード）を導入する動きが高まっている。本事業期間中、東京女子医科大学には医学教育グローバルスタンダードを定めた世界医学教育連盟の西太平洋地域の地区部会（14カ国加盟）事務局があった。世界ならびに地区部会活動の中で、医療教育の国際外部評価なども主催し、国際的教育質保証制度に日本の医学教育を同調させる努力が行われた。本事業を基に平成23年度新入生に導入した新カリキュラムは、グローバルスタンダード準拠カリキュラムである。平成22年度に採択された大学教育推進プログラム「国際基準の医学教育実践と質保証」は医学教育の国家間格差に対して日本の医学教育の優れていることを点検評価することが目的である。将来、医科大学国際認証制度が導入される前に日本におけるパイロットとして、平成24年度にグローバルスタンダードに基づく国際外部評価を受け、教育の自己点検評価と教育改善・充実を行う教育国際化に向けた取組である。日本の医療は平均余命、新生児死亡率など医療指標からは世界で有数の水準にある。その医療水準を支える医療教育も世界水準を上回ると考えられるが、国際的な客観評価が今後求められる。医師・看護師をはじめ医療資源を基本的には国内基準のみで医療を行い、高等教育全体も国際質保証制度が進んでいない日本の現状で、医科大学は国際的教育質保証になじみがない。本事業の継続として本学はこの課題に取り組む。

## 2. 取組の全体像 【1ページ以内】

「女性医療リーダー育成をめざす全学横断教育」は、本学建学精神である「社会に貢献する女性医療人の育成」を大学理念「至誠と愛」に基づき、現代の大学のビジョンである「ともに、世の人々の健康に貢献するすゝむを育成する」ことを達成するための教育である。言葉を変えるなら、本学の持つ崇高な医療の使命を実現できる人材を育成する取組である。

医療実践のなかで協働し、自らの取り組み姿勢を示すことで、組織・社会を主導するリーダーシップを執れる女性医療人を育成するために、本取組で学部を横断して行う教育を導入した。学生が医療人としてのキャリアおよび女性のライフサイクルを知り、生涯学習者および専門職としてキャリアを継続することを両学部教育の中で導入した。学部横断教育では医療という多職種が協働する環境において、状況に応じて組織・チームを主導し、それぞれの役割でリーダーシップを執る力を育成する教育を構築した。

医学部キャリア教育	合同協働教育	看護学部キャリア教育
<b>ライフサイクルを見据えた自己のキャリア構築</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>•初期臨床研修計画セミナー</li> <li>•キャリアを知り体験する地域診療所実習</li> <li>•キャリア・専門職の始まりを自覚する白衣授与式</li> </ul>	<b>協働の中でリーダーシップをとる女性医療者</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>•医療現場の判断とリーダーシップを考える他大学人間科学部学生と医学・看護学生の合同生命倫理ワークショップ</li> <li>•臨床実習での協働とリーダーシップ</li> </ul>	<b>専門職能を生かしたキャリア選択</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>•従来の教育科目に含まれる多彩なキャリア選択を知る機会(卒業研究・人間援助・女性論・医療における倫理学・看護管理学・コミュニケーション論)</li> <li>•キャリア選択学習</li> </ul>
<b>キャリアビジョン育成教育</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>•社会と医療者のキャリア構築を知るための地域診療所実習、老人施設実習、院内保育園実習</li> <li>•地域で活躍する卒業生女性医師のもとでの研修で学ぶキャリアビジョン</li> <li>•キャリアビジョン育成のテュートリアル</li> </ul>	<b>女性協働・男女協働を通じたリーダーシップ力教育</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>•チーム医療のなかでの協働を体験する医療チームワークショップ</li> <li>•医療実践の協働とリーダーシップの問題解決を討論する合同チームペーストラニング</li> </ul>	<b>キャリア設計教育</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>•キャリア設計の基礎教育(家族関係論)</li> <li>•キャリア設計セミナー</li> </ul>
<b>ロールモデル育成教育</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>•社会で活動する医療者との協働体験を通じての医療人ロールモデル構築(病院奉仕活動・院内保育園実習)</li> <li>•先輩医師からリーダーシップとキャリアを学ぶ小グループ討議</li> <li>•先人の軌跡を辿りロールモデルを学ぶための文献精読とフィードバック</li> </ul>	<b>協働教育</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>•協働するパートナーと交わり、互いを知る学習機会 合同テュートリアル 医療技能実習 コミュニケーション(医療対話)実習 解剖学実習(解剖慰霊祭) 合同入学式</li> </ul>	<b>キャリアビジョン教育</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>•キャリアビジョンを形成するための基礎知識教育(人間関係論・人間生活と経済)</li> <li>•キャリアビジョン形成授業</li> </ul>
		<b>キャリアイメージング教育</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>•キャリア概念形成の基礎学習(人間援助論)</li> <li>•キャリアを表現する日本語学</li> <li>•キャリア概念講義</li> </ul>

本事業では全学年に上図に示すような教育の導入あるいは既存の教育機会の改良が行われた。図の下から上に学年縦断的に教育目標と内容が進化する教育が構築された。最終的に社会あるいは医療実践の中でキャリアを継続しリーダーシップを取ることが教育アウトカムで、その達成は最終的には本教育を受けた卒業生のキャリアや進路を評価しなくてはならない。アウトカムを定めた教育カリキュラムは、アウトカム基盤型カリキュラムと呼ばれ国際的にも各国の医科大学で取り入れられている。本事業のアウトカムは国際水準の教育カリキュラムの構築であった。